



【インタビュー】桜の聖母学院中学校・高等学校 遠藤 静子 校長先生

《プロフィール》

同校はコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会に源をもつカトリック学校。建学の精神はカトリックの精神に根ざした人間観、世界観に基づき、知的、倫理的見識を養い、豊かな心と教養を培い、「愛」と「奉仕」に生きる良き社会人を育成すること。7つの習慣Jは学校が生徒に身に付けてほしいと願う形を生徒に分かりやすく示すことができるツールであるという判断により2007年10月より導入。(導入クラス ①中学2年:全クラス、②高校1年:特進1クラス、③高校2年:②を除く全クラス)

Q1:ズバリ、チャレンジカップは学校で取り組む意義はあると思いますか？



意義が大いにあると思います。

生徒に「何々をなさい！」と言って無理矢理与えても本気になって実行はしないでしょう。「何々をせねばならない」と生徒を縛ってさせるのでは、「7つの習慣J(以降7HJ)」の価値を半減させると思います。しかし、7HJの内容は、生徒が今まで教えられてきた内容を伝えているので、生徒に知識を与えるだけの授業では、意味がありません。実践から習慣化、そして成長実感がないと授業そのものが活かされないでしょう。生徒が実感できる7HJの醍醐味は、何かにチャレンジして達成感を得たとき、この生き方をすると[心地いい]と解ることです。

生徒にチャレンジさせるためには、生徒が「やりたい！」とその気にさせることです。やる気になっていない生徒に、一人ひとり面談していく時間は学校の生活では取れません。7HJの授業では、生徒が主体的にチャレンジしたいという状態になるように教材が組まれていますので、できるだけ大勢の生徒が自分の課題として「これを変えてみよう」と本気になってもらえるか、ここが授業者の勝負でしょう。だから、毎回の授業の「今週のチャレンジ」で何にどのように取り組んでいるかで授業の成果が判断できます。

毎週の授業での「今週のチャレンジ」とチャレンジカップで「チャレンジ」は、繋がりが同じ価値があると思います。チャレンジカップの価値は、生徒がより主体的に、しかもグループで長期に取り組むという点で価値があると思います。

Q2:「今週のチャレンジ」の実施率改善に苦労しているとの声を全国のFTから頂きますが、貴校のチャレンジ実施率は高いのですか？

今年度の現時点でのあるクラスの数値は、決意率91.3%、実施率65.2%、成長実感87.0%です。毎年授業開始時期はあまり高くなく、1学期後半「公的成功」の授業頃から高まっています。

生徒は、今自分がぶつかっている問題に何か解決の糸口が見えてくると心が動き、具体的にチャレンジに取り組もうとします。限えられた時間しかない学校で、生徒の心を動かし主体性を引き出すためには、「振り返りシート」への「教員のコメント返信」が重要になると思います。

始めは「頑張る」など漠然とした抽象的な言葉を記載する生徒が多くいます。そのときは、「それではチャレンジには取り組めないから、具体的に書きなさい」と言い続けます。

また、生徒のチャレンジの実施率が高くない多くの理由に、「忘れていました」というものがあります。なぜ、生徒が忘れるかという、チャレンジの内容が生徒にとって関心が低い事柄だからです。「忘れていた」という状態を無くすためには、日常の中の、生徒の関心ごととチャレンジ内容が深く繋がっているように心がけさせます。

気になっていることとチャレンジ内容を繋いでいくコツを、生徒に教えるのがいいと思います。例えば、テスト期間は勉強に関するチャレンジにすると忘れませんし、チャレンジの達成率もよくなり、成長実感もあがり、7HJをやっていて良かったとなりますよと、コツを教えます。

励まし・やる気・納得という、生徒の変容の行動を促す率直なコメントを書いてあげることによって、生徒が変わります。

Q3:コメント返信の徹底で生徒の心が動けば、生徒は主体的にチャレンジをしますか？

主体的になってきた生徒の背中を押すためには、生徒が自分でやっているかのように思わせる仕掛人に徹する必要があります。私たちは「黒子」であるべきです。

当校では、チャレンジカップに生徒が入りやすくするために、「チャレンジカップ in 桜の聖母」と題したチャレンジを夏休みに取り組ませます。何でもいいので、生徒が夏休みにチャレンジしてみたいと思うものを決めさせてエントリーさせ、1ヶ月間の活動報告書を提出させます。提出しない生徒も数名いますが、しつこく提出は求めません。

この取組みで大事にしていることは「チャレンジする思い」です。

結果的に「達成できた」とか「実行できなかった」という思いをどう受け止めて次に進むかに、重点をおきます。ある生徒には達成感の喜びから次のチャレンジに繋がる勢いを、他の生徒にはチャレンジを実行しなかった「挫折感・悔しさ」から次にどう生かすかを学んでもらいます。

生徒には、「挫折感がいつか役に立つのよ。次の成長に繋げるのよ」と授業でもコメント返信でも伝えます。

そして、リベンジ戦として、チャレンジカップを紹介します。

チャレンジカップの副賞の豪華さや東京で発表できることは、私たちFTが思っている以上に生徒にとっては大きなモチベーションになり、チャレンジカップに挑むきっかけになっているようです。

Q4:生徒が価値あるチャレンジをしないと声を全国のFTから頂きますが、貴校の状況はいかがですか？



当校の生徒は、ダイエット、漢検・英検合格、お笑いの寄席、社会貢献活動など多岐にわたり様々なことを行います。私自身は、どれもその生徒にとって一番実行したいことですから、それを使って内容を膨らますようにアドバイスをしています。ダイエットで頑張っている生活改善し、勉強も頑張っている生徒がいます。

それぞれの生徒の心に大きな「場」を占めていることをチャレンジとして取り扱うのが一番いいことです。それをどう方向付けて大きな成長に繋いでいくかで生徒を後押ししたいと考えて実行しています。

チャレンジカップにエントリーするとき、多くの生徒は、自分がやったことがあること、見たことがあること、そして配信されるDVDの資料を参考にチャレンジを設定しています。

当校では、学校の教育方針として、奉仕活動(地球環境を考えるとごみ拾いやボランディア)を学校行事に入れて、全生徒に取り組ませているのですが、生徒は、その経験を使ってチャレンジ内容を決めたりします。

ですから、学校行事は大事なことのだと、教えられました。

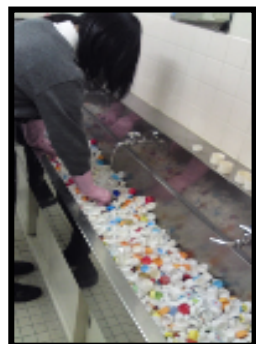
また、今回7HJ受講済みの学年も、エントリーができるとしていただいたことで、前年挫折した生徒が再チャレンジできるので、大変ありがたいと思いました。

私のところでは、昨年授業した学年からの自主的なエントリーが多かったことに私自身驚きました。

チャレンジカップでは、その年に実りがなくても、次の年に実りがあるということを見せてもらいました。



Q5:チャレンジカップのフォローにどれぐらい時間をかけていますか？



中学2年を担当したときは4時間、高校1年を担当したときは3時間の授業をチャレンジカップにさきました。

エントリーについては、生徒が書いてきたエントリーシートを見てアドバイスします。

例えば、具体性がなかったら、生徒の決めたテーマにそって具体的にしていくアドバイスをコメント返信でします。

中学2年生には冬休み明けに中間報告を提出させましたが、高校生には「チャレンジカップのチャレンジもやるのよ」と毎回の授業で声をかける程度です。

ある高校生は授業評価の一文に「チャレンジカップにもっと力をかけてほしかった」と書いていました。後押しがたりなかったのでしょうかと思っています。

チャレンジカップ期間中は、振り返りシートにチャレンジカップの進捗について記入する欄を追加して、進捗状況を書いてもらうことは役立つかもしれません。

そうすることで、生徒にチャレンジカップを忘れないようにさせることもできますし、コメント返信の範囲内でフォローもしてあげられます。

